

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 29 年 5 月 14 日
<第 1 号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成するために、東京都教育委員会が設置しました。今年度で 14 年目を迎え、これまでに約 1,600 名が修了し、多くの修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京教師養成塾の活動について広く知っていただくことを目的に発行しています。

●平成 29 年度 東京教師養成塾 入塾式

平成 29 年 4 月 4 日（火）東京都教職員研修センターにおいて、平成 29 年度東京教師養成塾入塾式を挙行了しました。都内及び近県の関係大学 37 大学から 131 名の第 14 期養成塾生が、これから始まる養成塾の講座や特別教育実習に大きな希望を抱き、緊張した表情で入塾式に臨みました。当日は、塾生の新たな門出を祝い、東京学芸大学 金子 一彦 教職大学院教授・附属学校運営部長、文教大学 教育学部 出井 雅彦 教授・教育学部長をはじめ、教師養成指定校の皆様、関係大学の御担当者等多くの方々に御参列いただきました。



—塾生代表の言葉—

東京教師養成塾の塾長である東京都教育委員会 中井 敬三 教育長は、式辞の中で「養成塾での学びを通して、多様で複雑な教育課題にも対応できる実践的な指導力を身に付けて欲しい。」と期待の言葉を贈りました。

また、入塾者代表として、東京家政大学 小暮 彩紀子 塾生が、「自己の課題を乗り越える度に、一步一步、成長していくことができると信じ、積極的かつ果敢に取り組んでいきたい。」と、決意の言葉を力強く述べました。

今後、第 14 期養成塾生は、39 区市の小学校 90 校、都立特別支援学校 20 校の教師養成指定校における特別教育実習や講座、体験活動を通して、教師としての使命感や実践的な指導力、柔軟な対応力等を身に付けていきます。

●第 1 回講座

4 月 8 日（土）に、第 1 回講座として 3 つの講義・演習と班別協議を実施しました。

「特別教育実習で身に付ける実践的指導力～教師に求められる指導力～」

東京教師養成塾を担当する菅野 恭子 指導主事が講義・演習を行いました。この講義・演習は、塾生として身に付けるべき資質・能力について具体的な事例を通して学び、特別教育実習に向けて具体的な課題を設定することをねらいとしています。受講する塾生の表情は希望に満ちあふれており、これから始まる特別教育実習への強い意気込みが伝わってきました。

「あなたもわたしも大切な一人～人権感覚を身に付ける～」

教育開発課 志村 安 統括指導主事が人権教育プログラム（平成 29 年 3 月東京都教育委員会）を用いて、講義・演習を行いました。この講義は、一人一人の児童・生徒を大切にしたい教育活動を行う意義を理解するとともに、教師に求められる人権感覚について考えることをねらいとしています。人権について話し合う演習では、塾生同士で深く考えるとともに、教師としての環境づくりの大切さについて学びました。

「教員の使命と服務」

東京教師養成塾を担当する高瀬 智子 統括指導主事が講義を行いました。この講義は、教育者として責任と誇りをもち、児童・生徒や保護者、社会が寄せる信頼と期待を具体的に理解することをねらいとしています。「どのような教師になりたいか」「教師を目指すに当たって」について考えるとともに、服務義務の具体的な内容について学びました。

【班別協議】

班別協議では、講義・演習で学んだことを踏まえて、学校における教師の働きや学級での人権上の配慮事項について話し合い、理解を深めました。

まとめとして、担当教授から内容や取組に関する指導が行われました。



—司会が協議を進行—



—教授からの指導—

【塾生の感想より】

- ・子供たちのために、塾生として自覚をもって実習や講座に取り組まなければいけないことを学んだ。
- ・講義や班別協議を通して、「人権」の大切さを改めて学んだ。実習校での取組を学ぶとともに、「人権」を意識して子供たちや教職員の方々と接していきたい。

● 第2回講座 「これからの東京都の特別支援教育の実際」

4月22日(土)に、特別支援教育についての基礎的な知識や学級における児童・生徒への適切な支援の在り方について理解を深めるとともに、児童・生徒の可能性を伸ばすための具体的な方法を身に付けることをねらいとして、第2回講座を行いました。

「東京都の特別支援教育の施策について」

専門教育向上課 守屋 光輝 統括指導主事が講義を行いました。この講義では、東京都の特別支援教育の施策のポイントについて、具体的な説明が行われました。結びに「教員になることがゴールではなく、教員になってからのことも考え、自分ができることを追求してほしい」という温かいメッセージがありました。

「特別な支援を必要とする児童への支援の在り方」

国分寺市立第九小学校 根本 節子 主幹養護教諭を講師に招いて、講義が行われました。講師からは、インクルーシブ教育システムや校内支援体制等について、指導事例を交えた説明がありました。子供たちへの支援は千差万別であるが、意図と計画性のある声かけが大切であるという話に多くの塾生がうなずいていました。

「特別支援学校におけるセンター的機能の取組」

東京都立中野特別支援学校 田中 雅子 主任教諭を講師に招いて、特別支援学校のセンター的機能やコーディネーターの役割について、演習を交えた講義が行われました。講師から「子供が困っていることに気付く教師」「通常学級と特別支援学校・学級の架け橋となれる教師」を目指してほしいとの願いが伝えられました。

【塾生の感想より】

- ・東京都では、様々な特別支援教育に対する取組がなされており、各学校が工夫しながら、個々のケースに対応していることが分かった。
- ・子供の良さや可能性を引き出すために「褒める・認める・励ます」ことを意識して、指定校での実習に取り組んでいく。
- ・関係機関や保護者との連携が大切であることを学んだ。
- ・これまで意識しなかった黒板の色使いや指示の出し方について気を付けていく。



—講義を受講する塾生—

【連載シリーズ コラム①】

◆ 子供との関係を築く ◆

東京教師養成塾教授 國分 重隆

東京教師養成塾生の教師養成指定校における特別教育実習は順調に進んでいます。月一回の研究授業も始まっている塾生もいます。この時期、私たち教授陣が大切にしている指導の中に、「子供との確かな信頼関係を築く」ということがあります。教育の目標を一人一人の子供たちに実現していく上で、一番の基盤になることだからです。そのためには、例えば、子供たちとよく遊ぶ、悩みの相談に真剣に乗るなど、具体的な手だてを身に付けることが必要です。しかし、その前にもっと大切なことがあります。それは、信頼関係を本物にしようとする「心の構え」です。塾生がやがて教師になったとき、この心の構えを確かにもって一日一日の実践に臨むことで、子供との本当の信頼関係もできあがっていきます。ここではその心の構えについて述べたいと思います。

教師は、強い使命感のもと、学級の一人一人の子供にとって、「どこまでも自分を信じ守ってくれる」、「言葉や行動から、自分たちへの深い愛情がひしひしと伝わってくる」、そんな存在にならなければなりません。そして、常にその深い愛情を基盤にして、子供の願いを正面から受け止め、内面にある悩みや不安を取り除くことに全力で臨む人間であり続けなければなりません。そうした姿勢を貫くことが、子供との信頼関係を築くことに繋がります。それを確かなものにするためには、以下のような心の構えが大切になります。

- (1) 教師である自分が心を開き、日頃の人間的な触れ合いを充実させる時間を確実にもつ。
- (2) 教師自身が、常に子供たちの行動や正しい判断の基準となる生きた手本になる。
- (3) 子供の前に立つときには、優しさの中にも規律ある雰囲気を出すように努力する。
- (4) ルールは少なく、分かりやすく、誰もが気持ちよく守っていけるようにし、それをどの子供に対しても毅然とした態度で同じように徹底していく。
- (5) 子供の一番の理解者になり、子供が自ら自分のよさを安心して伸ばしていくことができる、子供を大切にしている教師の温かい優しさに包まれた学級風土をつくる。
- (6) 授業を通して、子供たちが友達と学ぶ楽しさや、互いの意見を交わし考えが深まっていくことを実感し、次の学習を楽しみにするようになる指導力を身に付けていく。

大切なことはまだまだあるでしょう。塾生がこうした心の構えをしっかりと持ち、子供と確かな信頼関係を築く教師になるための第一歩が、この一年間の特別教育実習です。その中で、明るく、元気で、思いやりに満ちた存在になり、悩みをもつ子供には心の拠り所になれるように自分を磨くことです。子供から、「この先生に会えてよかった」といわれるような関係が築けるように、私たちも支援していきます。